

## 第3章 雑則

### 【建築物の主要構造部に関する制限の特例】

**第53条の6** 令第108条の3第3項に規定する建築物に対する第6条第1項、第14条、第16条第2項、第18条、第23条の2、第23条の4第1項及び第2項、第25条第3項、第29条第3項、第30条第2項、第33条第1項、第36条第3項、第41条、第43条の3第2項、第44条、第45条、第49条並びに第53条の4の規定（次項において「耐火性能に関する規定」という。）の適用については、当該建築物の部分で主要構造部であるものの構造は、耐火構造とみなす。

2 令第108条の3第4項に規定する建築物に対する第16条第2項（令第112条第20項に規定する構造物を除く。）、第23条の4第2項（令第112条第20項に規定する構造物を除く。）、第29条第3項、第36条第3項、第41条第2項、第45条第1項、第49条第2項（令第112条第20項に規定する構造物を除く。）及び第53条の4の規定（以下この項において「防火区画等に関する規定」という。）の適用については、これらの建築物の部分で主要構造部であるものの構造は耐火構造と、これらの防火設備の構造は特定防火設備とみなし、これらの建築物に対する防火区画等に関する規定以外の耐火性能に関する規定の適用については、これらの建築物の部分で主要構造部であるものの構造は耐火構造とみなす。

（平12条例83・追加・平22条例5・平24条例41・平30条例51・令元条例18・令2条例15・一部改正）

#### ● 第1項

令第108条の3の規定に基づき、当該建築物の主要構造部の耐火に関する性能が検証された建築物に限り、上記条例上の耐火性能関係規定の適用についても、当該建築物の部分で主要構造部であるものの構造は、耐火構造とみなすこととしたものです。

#### ● 第2項

主要構造部が令第108条の3第1項に該当する建築物で開口部に設けられる防火設備の火災時における遮炎に関する性能が検証されたものに限り、上記条例上の防火区画等関係規定の適用についても、これら建築物の部分で主要構造部であるものの構造は耐火構造と、これらの防火設備の構造は特定防火設備とみなし、これら建築物に対する防火区画関係規定以外の耐火性能関係規定の適用についてはこれら建築物の部分で主要構造部であるものの構造は耐火構造とみなすこととしたものです。

### 【避難上の安全の検証を行う建築物の階に対する基準の適用の特例】

**第53条の7** 令第129条第1項に規定する建築物の部分については、第19条（診療所及び児童福祉施設等を除く。）、第27条第2項（廊下の幅に限る。）、第35条第1項から第4項まで、第36条第1項から第4項まで（同項第2号及び第3号を除く。）、第38条第2項及び第43条の2の規定は、適用しない。

（平12条例83・追加、平22条例5・平24条例41・平28条例32・一部改正）

本条は、令第129条の規定に基づき、火災時において当該建築物の階に存する者の階からの避難が安全に行われること（階避難安全性能）が検証されたものの階に限り、上記条例上の避難関係規定についても適用しないこととしたものです。

**【避難上の安全の検証を行う建築物に対する基準の適用の特例】**

**第 53 条の 8** 令第 129 条の 2 第 1 項に規定する建築物については、第 16 条第 2 項（病院、診療所及び児童福祉施設等を除き、令第 112 条第 18 項本文に規定する構造物に限る。）、第 19 条（診療所及び児童福祉施設等を除く。）、第 27 条第 2 項（廊下の幅に限る。）、第 33 条第 2 項、第 35 条第 1 項から第 4 項まで、第 36 条第 1 項から第 4 項まで（同項第 2 号及び第 3 号を除く。）、第 38 条第 1 項、第 2 項及び第 4 項、第 39 条、第 40 条第 1 項（出口の幅の合計に限る。）及び第 2 項、第 43 条の 2 並びに第 49 条第 2 項（令第 112 条第 18 項本文に規定する構造物に限る。）の規定は、適用しない。  
(平 12 条例 83・追加・平 24 条例 41・平 28 条例 32・平 30 条例 51・令元条例 18・令 2 条例 15・一部改正)

本条は、令第 129 条の 2 の規定に基づき、当該建築物のいずれの火災室で火災が発生した場合においても、在館者の全てが当該建築物から地上までの避難が安全に行われること（全館避難安全性能）が検証された建築物に限り、上記条例上の避難関係規定についても適用しないこととしたものです。

**【特殊の構造方法又は建築材料を用いる建築物に対する基準の適用の特例】**

**第 53 条の 9** 第 1 章から第 2 章の 2 までの規定は、法第 38 条（法第 66 条及び法第 67 条の 2 において準用する場合を含む。）の規定により認定を受けた構造方法又は建築材料を用いる建築物については、市長がその構造方法又は建築材料が第 1 章から第 2 章の 2 までの規定に適合するものと同等以上の効力があると認めて許可した場合においては、適用しない。  
(平 27 条例 40・追加、令元条例 11・一部改正)

市長の許可にかかる緩和規定です。

**【一の敷地とみなすことによる制限の緩和】**

**第 54 条** 法第 86 条第 1 項若しくは第 2 項の規定により認定を受け、同条第 8 項の規定により公告され、又は法第 86 条の 2 第 1 項の規定により認定を受け、同条第 6 項の規定により公告された建築物については、第 4 条から第 4 条の 3 まで、第 5 条、第 6 条第 2 項から第 4 項まで、第 20 条の 2、第 23 条の 3、第 24 条、第 25 条、第 27 条第 4 項から第 6 項まで、第 28 条第 2 項及び第 4 項、第 29 条、第 30 条、第 32 条、第 47 条、第 48 条、第 48 条の 2（第 47 条及び第 48 条の規定に基づく制限の緩和に関する許可に係る部分に限る。）、第 52 条並びに第 53 条の規定を適用する場合においては、これらの建築物は、同一敷地内にあるものとみなす。  
(平 22 条例 5・追加)

本条例の規定のうち、一団地認定制度又は連担建築物設計制度の認定・公告により、複数の建築物を同一敷地内にある建築物としてみなせる条項を定めたものです。

なお、増築等の際には、第 4 条、第 4 条の 3 第 2 項の一部（細則第 20 条第 1 号から 3 号、第 6 号から第 9 号）、第 6 条第 2 項から第 4 項まで、第 20 条の 2、第 23 条の 3、第 25 条、第 27 条第 4 項から第 6 項まで、第 28 条第 2 項及び第 4 項、第 30 条、第 32 条並びに第 48 条第 1 項及び第 2 項については、増築等を行う建築物の敷地に限って各条文を適用します。

**【一の敷地内にあるとみなされる建築物に対する外壁の開口部に対する制限の緩和】**

**第 54 条の 2** 法第 86 条の 4 に規定する建築物について第 16 条、第 23 条第 1 項又は第 23 条の 4 第 1 項第 1 号の規定を適用する場合においては、法第 2 条第 9 号の 2 イに該当する建築物は耐火建築物と、同条第 9 号の 3 イ又はロのいずれかに該当する建築物は準耐火建築物とみなす。

(昭 47 条例 11・旧第 55 条繰上・一部改正、昭 57 条例 47・昭 62 条例 61・平 3 条例 71・平 5 条例 43・平 9 条例 63・平 10 条例 57・一部改正、平 14 条例 64・全改、平 17 条例 105・一部改正、平 22 条例 5・旧第 54 条繰下、令元条例 11・一部改正)

法上、耐火建築物又は準耐火建築物としなければならない建築物で、一団地認定制度又は既存建築物を含めた連担建築物設計制度によって認定を受けたものについては、防火上問題が少ないので、法第 86 条の 4 の規定において外壁の開口部の防火戸設置が免除されています。

本条はこれと同様に条例上同様な制限をしているものについて制限の緩和をしています。

**【仮設興行場等に対する制限の緩和】**

**第 55 条** 法第 85 条第 5 項又は第 6 項に規定する仮設興行場等については、第 4 条、第 7 条、第 9 条、第 16 条、第 33 条、第 36 条第 3 項、第 38 条第 4 項、第 39 条、第 41 条又は第 49 条から第 51 条までの規定は、適用しない。

(昭 47 条例 11・旧第 56 条繰上・一部改正、平 3 条例 71・平 5 条例 43・平 17 条例 105・平 24 条例 41・平 30 条例 51・令元条例 11・一部改正)

法第 85 条第 5 項又は第 6 項の規定により、仮設興行場等についての安全上、防火上、衛生上支障がないと認められたものについては、制限の緩和があります。同様の趣旨により本条においても条例上の制限について緩和する旨の規定をしたものです。

ここでいう「仮設興行場等」とは、法第 85 条第 5 項に規定する「仮設興行場、博覧会建築物、仮設店舗その他これに類する仮設建築物」をいいます。

また、本条に定める規定のほか、法の規定により適用除外となる規定があります。

法第 85 条第 5 項又は第 6 項の規定により、「仮設興行場等」については法第 3 章の規定は適用されないため、法第 43 条第 3 項に基づく条例の規定（第 4 条の 2、第 5 条、第 6 条第 2 項及び第 3 項、第 15 条、第 24 条から第 26 条まで、第 27 条第 4 項及び第 5 項、第 28 条第 2 項、第 29 条から第 32 条まで、第 47 条、第 47 条の 2、第 48 条第 1 項、第 52 条並びに第 53 条）は適用されません。

ただし、法第 85 条第 5 項又は第 6 項に基づく許可条件として、法及び本条により適用除外とされる規定への適合が必要となる場合があります。

#### 【既存建築物に対する制限の緩和】

- 第 56 条** 法第 3 条第 2 項の規定により、第 14 条、第 16 条、第 23 条、第 23 条の 2、第 23 条の 4 第 1 項第 1 号、第 33 条第 1 項、第 44 条又は第 49 条第 1 項の規定の適用を受けない建築物に係るその床面積の合計が 50 平方メートル以内の増築等については、法第 3 条第 3 項第 3 号及び第 4 号の規定にかかわらず、これらの規定は、適用しない。
- 2 法第 3 条第 2 項の規定により第 13 条、第 15 条、第 19 条、第 20 条、第 25 条、第 26 条、第 27 条第 1 項若しくは第 2 項、第 30 条、第 34 条、第 35 条、第 36 条、第 39 条、第 40 条又は第 43 条の 2 から第 43 条の 4 までの規定の適用を受けない建築物であって、令第 117 条第 2 項各号に掲げる建築物の部分（以下この項において「独立部分」という。）が 2 以上あるものについて増築等をする場合においては、法第 3 条第 3 項第 3 号及び第 4 号の規定にかかわらず、当該増築等をする独立部分以外の独立部分に対しては、これらの規定を適用しない。
- 3 法第 3 条第 2 項の規定により第 6 条の 2 から第 8 条まで、第 20 条の 2、第 21 条、第 23 条の 4 第 3 項、第 37 条、第 38 条又は第 53 条の 3 から第 53 条の 5 までの規定の適用を受けない建築物について増築等をする場合においては、法第 3 条第 3 項第 3 号及び第 4 号の規定にかかわらず、当該増築等をする部分以外の部分に対しては、これらの規定は、適用しない。
- 4 法第 3 条第 2 項の規定により、第 4 条の規定の適用を受けない建築物に係る増築等については、増築等が基準時（同項の規定により、この条例の規定の適用を受けない建築物について、同項の規定により引き続きこの条例の規定の適用を受けない期間の始期をいう。以下この項において同じ。）における敷地内におけるものであり、かつ、増築等の後における延べ面積及び建築面積が基準時における敷地面積に対してそれぞれ法第 52 条第 1 項及び法第 53 条の規定に適合する場合は、法第 3 条第 3 項第 3 号及び第 4 号の規定にかかわらず、第 4 条の規定は、適用しない。
- 5 法第 3 条第 2 項の規定により第 4 条の 3 第 1 項から第 4 項までの規定の適用を受けない建築物に係る増築等又は用途の変更（住戸及び住室の増加を伴わないものに限る。）については、法第 3 条第 3 項第 3 号及び第 4 号並びに法第 87 条第 3 項の規定にかかわらず、第 4 条の 3 第 1 項から第 4 項までの規定は、適用しない。
- 6 法第 3 条第 2 項の規定により第 53 条の 3 から第 53 条の 5 までの規定の適用を受けない建築物に係る用途の変更については、法第 87 条第 3 項の規定にかかわらず、第 53 条の 3 から第 53 条の 5 までの規定は、適用しない。
- (昭 47 条例 11・旧第 57 条繰上・一部改正、昭 57 条例 47・平 3 条例 71・平 5 条例 43・平 16 条例 51・平 17 条例 105・平 22 条例 5・平 24 条例 41・平 27 条例 40・平 28 条例 71・平 30 条例 51・令元条例 11・一部改正)

#### ● 第 1 項

建築物を耐火建築物、又は建築物の主要構造部を耐火構造等としなければならない既存不適格建築物について、床面積の合計が 50 平方メートル以内の増築等は適用を除外することとしています。

これは、法第 86 条の 7 第 1 項（令第 137 条の 4）との整合を図っています。

## ● 第2項

条例の避難関連規定に適合しない既存不適格建築物について、増築等をしない独立部分には遡及しないこととしています。法第86条の7第2項、令第137条の14第2号と同様、令第117条第2項各号に掲げる建築物の部分の独立部分とみなします(図1)。

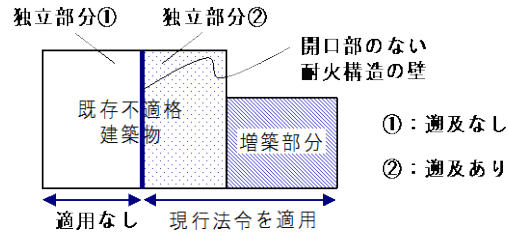


図 1

## ● 第3項

条例中、居室単位、設備単位等で適用する規制について、増築等をする部分のみ現行法を適用し、既存不適格部分には適用しないこととしています(図2)。

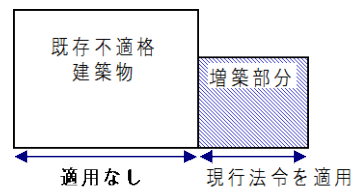


図 2

## ● 第4項

路地状部分の幅員と長さの規定に適合しない既存不適格建築物について、容積率及び建蔽率が適合する増築等は適用を除外することとしています。

## ● 第5項

共同住宅等における敷地内への駐車施設の設置義務に関する規定に適合しない既存不適格建築物について、住戸数と住室数の合計が増加しない増築等又は用途の変更については適用を除外することとしています。

## ● 第6項

昇降機に関する規定に適合しない既存不適格建築物について、用途変更のみを行う場合には適用を除外することとしています。

**【特定の用途に供する部分の床面積の合計に算入しない面積】**

**第 56 条の 2** 次の各号に掲げる建築物又は建築物の部分に対する第 4 条の 3、第 5 条、第 6 条、第 7 条、第 14 条から第 16 条まで、第 18 条、第 20 条の 2、第 23 条の 2 から第 27 条まで、第 43 条の 2、第 52 条及び第 53 条の規定（以下この項において「特定規定」という。）の適用については、当該各号に掲げる面積は、特定規定に規定する用途に供する部分の床面積の合計に算入しない。

- (1) 自動車車庫その他の専ら自動車又は自転車の停留又は駐車のための施設（誘導車路、操車場所及び乗降場を含む。以下この条において「車庫等」という。）の用途に供する部分を有する建築物又は建築物の部分 当該車庫等の用途に供する部分の床面積
  - (2) 特定規定に規定する用途とその他の用途を兼ねる部分（以下この号において「共用部分」という。）を有する建築物又は建築物の部分 共用部分の床面積の合計に、専ら特定規定に規定する用途に供する部分の床面積の合計と専らその他の用途に供する部分の床面積の合計の和に対する専らその他の用途に供する部分の床面積の合計の割合を乗じて得た面積
- 2 専ら自転車のための車庫等を有する建築物に対する第 47 条及び第 48 条から第 51 条までの規定の適用については、当該専ら自転車のための車庫等の用途に供する部分の床面積は、自動車車庫又は自動車修理工場の用途に供する部分の床面積の合計に算入しない。

(平 22 条例 5・追加・平 24 条例 41・平 30 条例 51・一部改正)

● **第 1 項**

「特定規定」について、「〇〇の用途に供する部分」の床面積の合計に算入しない面積を定めたものです。

○ **第 1 号**

建築物又は建築物の部分に車庫等を有する場合には、これらの車庫等の床面積を特定規定の用途に供する床面積から除きます。

○ **第 2 号**

複合用途の場合は、以下のとおり、共用部分の床面積の合計に、対象用途と対象外用途との床面積の合計の和に対する対象外用途の床面積の合計の割合を乗じて得た面積を除きます。

$$\begin{aligned} \text{「特定規定」に規定する部分の床面積の合計} &= A + C - \left( C \times \frac{B}{A + B} \right) \\ &= A + C \times \left( \frac{A}{A + B} \right) \end{aligned}$$

A : 対象用途の床面積の合計  
B : 対象外用途の床面積の合計  
C : 共用部分の床面積の合計

● **第 2 項**

第 47 条及び第 48 条から第 51 条までの規定について、自動車車庫又は自動車修理工場の用途に供する部分の床面積の合計には、駐輪場の床面積を除きます。



### 【道に関する基準】

第 56 条の 3 令第 144 条の 4 第 2 項の規定による基準の適用区域は、横浜市全域とする。

2 令第 144 条の 4 第 2 項の規定による基準は、次に定めるものとする。

- (1) 道は、直接に、又は四輪の自動車の通行に支障がない他の道路その他の空地を經由して、幅員 6 メートル以上の道路に接続しなければならない。ただし、市長が周囲の状況によりやむを得ないと認めた場合においては、この限りでない。
- (2) 道の幅員は、4.5 メートル以上としなければならない。ただし、市長が周囲の状況によりやむを得ないと認めた場合においては、この限りでない。
- (3) 袋路状道路の終端には、令第 144 条の 4 第 1 項第 1 号ハに規定する自動車の転回広場を設けなければならない。ただし、市長が安全上支障がないと認め、又は周囲の状況によりやむを得ないと認めた場合においては、この限りでない。
- (4) 両端が他の道路に接続し、かつ、接続する道路の一端が四輪の自動車の通行に支障がある道は、袋路状道路とみなして、令第 144 条の 4 第 1 項第 1 号及び前号の規定に適合するものとしなければならない。ただし、市長が周囲の状況によりやむを得ないと認めた場合においては、この限りでない。
- (5) 袋路状の道には、その終端から幅員 1 メートル以上の通路を設け、道路（幅員 4 メートル未満の道で、避難上有効なものを含む。）、公園その他これらに類するもので避難上有効なものに接続しなければならない。ただし、市長が安全上支障がないと認め、又は周囲の状況によりやむを得ないと認めた場合においては、この限りでない。
- (6) 道が同一平面で交差し、若しくは接続し、又は屈曲する場合で、交差若しくは接続又は屈曲により生ずる内角が 60 度以下のときは、角地の隅角を挟む辺を二等辺とする底辺 2 メートル以上の三角形の部分に道を含む隅切りを設けなければならない。ただし、市長が周囲の状況によりやむを得ないと認め、又はその必要がないと認めた場合においては、この限りでない。
- (7) 道の排水設備の末端は、公共下水道、都市下水路その他の排水施設に排水上有効に連結しなければならない。
- (8) 道は、アスファルト簡易舗装と同等以上の強度を有する構造とし、当該道の縦断勾配が 9 パーセントを超える部分にあつては、市長が周囲の状況によりやむを得ないと認めた場合を除き、滑り止めの措置を講じたものとしなければならない。

(平 15 条例 13・追加・平 22 条例 5・旧第 56 条の 2 繰下、令元条例 11・一部改正) (平 15 条例 13・追加・平 22 条例 5・旧第 56 条の 2 繰下)

本条は、法第 42 条第 1 項第 5 号で定める道路の位置の指定に係る「道に関する基準」を定めたものです。その他の指定基準、手続き等詳細に関しては「横浜市道路位置指定申請の手引き」をご参照ください。

#### 【道路の変更又は廃止】

**第 56 条の 4** 法第 42 条第 1 項第 2 号から第 5 号まで、第 2 項及び第 3 項並びに法附則第 5 項の規定による道路を変更し、又は廃止しようとする者は、あらかじめ、市長に申請書を提出しなければならない。

2 市長は、前項の申請に基づいて道路の変更又は廃止をした場合においては、その旨を当該申請者に通知する。

3 市長は、第 1 項の申請に基づいて法第 42 条第 1 項第 2 号又は第 3 号の規定による道路の変更又は廃止をした場合においては、その旨を公告する。

(平 12 条例 25・追加、平 15 条例 13・旧第 56 条の 2 繰下・平 22 条例 5・旧第 56 条の 3 繰下・一部改正)

地方自治法第 14 条第 2 項に基づき、道路の変更又は廃止をする場合の手続き規定です。

#### ● 第 3 項

法第 42 条第 1 項第 2 号又は第 3 号の規定による道路の変更又は廃止をした場合の公告を規定しています。

なお、指定道路（法第 42 条第 1 項第 4 号若しくは第 5 号、第 2 項若しくは第 4 項又は法第 68 条の 7 第 1 項の規定による指定に係る道路）と法第 42 条第 3 項の規定による道路の変更又は廃止をした場合については、法施行規則第 10 条の規定により公告します。

#### 第 56 条の 5 削除

(平 27 条例 40)

#### 【工事監理者等の届出】

**第 56 条の 6** 法第 7 条第 4 項（法第 87 条の 4 又は法第 88 条第 1 項若しくは第 2 項において準用する場合を含む。）若しくは法第 7 条の 3 第 4 項の規定による検査の対象となる建築物の建築主又は法第 18 条第 2 項の国の機関の長等（以下「国の機関の長等」という。）は、工事に着手する日の 14 日前（法第 6 条第 1 項、法第 6 条の 2 第 1 項又は法第 18 条第 3 項（法第 87 条第 1 項、法第 87 条の 4 又は法第 88 条第 1 項若しくは第 2 項においてこれらの規定を準用する場合を含む。）の規定による確認済証の交付を受けた日から 13 日以内に工事に着手しようとする場合には、工事の着手日前までに、建築主事に工事監理者及び工事施工者の選任に関する届出書を提出しなければならない。

2 建築主又は国の機関の長等は、前項の規定により届け出た工事監理者又は工事施工者の氏名又は住所を変更しようとする場合は、速やかに、建築主事に届出書を提出しなければならない。

(平 12 条例 25・追加、平 12 条例 83・旧第 56 条の 3 繰下・一部改正、平 15 条例 13・旧第 56 条の 4 繰下・平 22 条例 5・旧第 56 条の 5 繰下、令元条例 11・一部改正)

完了検査及び中間検査の対象となる建築物の建築主等には、工事着手の 14 日前迄に工事監理者及び工事施工者の選任に関する届出書の提出を地方自治法第 14 条第 2 項に基づき規定したものです。



#### 【手数料】

**第 56 条の 7** 次に掲げる許可を受けようとする者は、申請の際、1 件につき 27,000 円の手数料を納付しなければならない。ただし、一の建築物につき、第 3 号、第 7 号、第 9 号、第 13 号、第 16 号（第 47 条第 1 項の規定に基づく制限の緩和に関する許可に係る部分に限る。）、第 17 号又は第 18 号の許可のいずれか 2 以上の許可を同時に申請する場合においては、これらの申請を 1 件の申請とみなす。

- (1) 第 3 条の 2 第 5 項の規定に基づく許可
- (2) 第 4 条第 4 項の規定に基づく許可
- (3) 第 4 条の 2 第 3 項の規定に基づく許可
- (4) 第 4 条の 3 第 5 項第 1 号の規定に基づく許可
- (5) 第 4 条の 3 第 6 項第 1 号の規定に基づく許可
- (6) 第 4 条の 5 第 4 項第 2 号の規定に基づく許可
- (7) 第 5 条第 5 項の規定に基づく許可
- (8) 第 6 条第 4 項の規定に基づく許可
- (9) 第 24 条第 3 項の規定に基づく許可
- (10) 第 25 条第 4 項の規定に基づく許可
- (11) 第 27 条第 6 項の規定に基づく許可
- (12) 第 28 条第 4 項の規定に基づく許可
- (13) 第 29 条第 4 項の規定に基づく許可
- (14) 第 42 条の規定に基づく許可
- (15) 第 46 条ただし書の規定に基づく許可
- (16) 第 48 条の 2 の規定に基づく許可
- (17) 第 52 条第 4 項の規定に基づく許可
- (18) 第 53 条第 2 項の規定に基づく許可
- (19) 第 53 条の 9 の規定に基づく許可

2 既納の手数料は、返還しない。ただし、市長がやむを得ない理由があると認めるときは、この限りでない。

3 市長は、公益上必要があると認めるとき、又は災害その他特別の理由があると認めるときは、手数料を減免することができる。

(平 18 条例 31・追加、平 22 条例 5・旧第 56 条の 6 繰下・一部改正、平 27 条例 40・平 28 条例 71・一部改正)

本条は、許可を受ける場合の申請手数料を定めるものです。許可を受けようとする条文ごとに 1 件となりますが、複合建築物で各々の用途について条例の制限があり、特例許可を受けようとする場合（例：共同住宅（第 5 条）と物品販売業を営む店舗（第 24 条）の複合建築物）は、複数件であっても 1 件の申請とみなして手数料を算定します。

#### 【市長への委任】

**第 57 条** 法又はこの条例の規定に基づく許可その他の処分に関する手続等について必要な事項は、市長が定める。

(昭 47 条例 11・旧第 58 条繰上、平 12 条例 25・全改)

手続規定等は、「横浜市建築基準法施行細則」で定めています。